

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

認知症の救急医療の実態に関する研究

先進医療データ管理室

武田 章敬 室長

平成27年6月11日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活を継続するためには、認知症の人が肺炎や骨折などの急な身体疾患に罹患した場合に適切な医療サービスが受けられることが重要である。

認知症の人が身体疾患を来した場合に適切な医療が提供されているかどうかを明らかにするために、医療を受ける側（認知症の人と家族の会会員）と医療を提供する側（救急告示病院）に対する全国調査を行った。医療を受ける側を対象とした調査で、認知症を理由とした診療拒否や入院拒否が一定数あることが明らかとなり、また、医療を提供する側を対象とした調査で、少数ではあるが認知症の人の身体疾患の救急医療や緊急入院を行わない、受け入れない病院があることが明らかになった。本報告会ではこれらの調査結果をより詳細に解析し、「認知症の人がどのような条件において身体疾患を来しやすいか」「どのような場合に医療機関の受診や入院において問題が生じやすいか」「認知症の人の救急医療に対して積極的な病院と消極的な病院の違いはどこにあるのか」等についても報告する。

また、知多北部地域の介護保険サービス事業所と有料老人ホームを対象として実施した認知症の救急医療に関する調査や職員の認知症に関する研修や資格の状況に関する調査についても報告する。